

第4期仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等  
(令和5年度)

仁 淀 川 地 域 本 部

令和5年2月9日(木)



# 地域アクションプランの令和5年度の追加・削除(予定項目)

## 地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしや既存事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

- (1) 新規事業の掘り起こし  
発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし
- (2) 課題解決に向けた支援
  - ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
  - ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援

## 地域アクションプランの増減 (▲1)

- (1) 追加(新規) : 3件
  - 仁淀川町滞在交流型観光の推進(仁淀川町)
  - 梶原町産の桜を活用した加工品等の生産・販路の拡大(梶原町)
  - 地元食材を活用した加工品の開発・製造による地産地消・外商の推進(四万十市)
- (2) 削除(廃止) : ▲2件
  - 温泉開発による観光地としての魅力向上(高知市)
  - 須崎市養殖漁業等のさらなる振興(須崎市)
- (3) 統合 : ▲2件
  - 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入れ体制の充実(仁淀川町)  
→仁淀川町滞在交流型観光の推進(仁淀川町)へ統合
  - 「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進(中土佐町)  
→中土佐町の地域資源を活用した体験型・滞在型観光の推進(中土佐町)へ統合

## 地域アクションプラン数 R4年度 218件 → R5年度 217件 (▲1)

	R4年度 (第4期Ver.3)	R5年度 (第4期Ver.4)				AP数
	AP数 R5.1月時点	増減				
		追加	削除	統合	計	
安芸	30					30
物部川	24					24
高知市	22		▲1		▲1	21
嶺北	24					24
仁淀川	34	1		▲1		34
高幡	40	1	▲1	▲1	▲1	39
幡多	44	1			1	45
合計	218	3	▲2	▲2	▲1	217

○地域産業クラスタープロジェクト R4年度 18件 → R5年度 17件 (▲1)

# 仁淀川地域アクションプラン項目（第4期計画Ver.3（R4年度））

No.	現在(令和4年度)	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		11	11	10	9	8	10
1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進		●	●	●	●	●
2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興			●	●	●	●
3	日高村まるごとブランド化						●
4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト		●				
5	本川手箱きじの販路拡大		●				
6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進					●	
7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
8	仁淀川流域における地域性の高い特用林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト				●		
10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化	●					
11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	●					
12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興	●					
13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●	●			●
14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
15	いの町中心市街地の活性化		●				
16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化			●			
18	仁淀川町における㈱フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト			●			
19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進			●			
20	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進				●		
21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト				●		
22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化						●
23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
24	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化	●					
26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化	●					
27	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進		●				
28	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
29	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実			●			
30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進				●		
31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進					●	
32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化					●	
33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進						●
34	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化						●

# と第4期計画Ver.4 (R5年度) の対比表)

【仁淀川地域】

	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	改定案(令和5年度)
	11	11	10	9	8	10		
①修正	●	●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進
			●	●	●	●	2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興
②修正						●	3	日高村まるごとブランド化
	●						4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト
	●						5	本川手箱きじの販路拡大
					●		6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進
③修正	●	●	●	●	●	●	7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興
	●	●	●	●	●	●	8	仁淀川流域における地域性の高い特用林産物の生産拡大
④修正				●			9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト
	●						10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化
	●						11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化
	●						12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興
	●	●	●			●	13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
⑤修正	●						14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化
	●						15	いの町中心市街地の活性化
	●						16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売
			●				17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化
			●				18	仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト
⑥修正			●				19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進
⑦修正				●			20	さかわの地乳(ごちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進
				●			21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト
						●	22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化
⑧修正	●	●	●	●	●	●	23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
	●						24	土佐市における体験型観光と食観光の推進
	●						25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化
	●						26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化
	●						27	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進
	●						28	いの町本川地区での山岳観光の推進
①追加			●				29	仁淀川町滞在交流型観光の推進
①統合								
⑨修正				●			30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進
					●		31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進
					●		32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化
						●	33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進
①拡充						●	34	日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化



第4期仁淀川地域アクションプランの令和5年度の追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	仁淀川町滞在交流型観光の推進 （仁淀川町） 【実施主体】 仁淀川町、(株)ビバ沢渡、 仁淀川町観光協会、指定管理者	自然の景観を活かした滞在交流型観光の拠点施設としてキャンプ場やアクティビティ施設の整備を行うとともに、他の観光スポットとの周遊ルートを形成し、滞在交流型観光を推進することにより地域の活性化につなげる。

■削除

該当なし

■その他(拡充、統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 29 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実（仁淀川町） 【実施主体】 仁淀川町観光協会、仁淀川町、 仁淀川町内の地域づくり団体	【統合】 観光客に町内を周遊してもらい滞在時間を増やすための取り組みとして、新たに地域APに位置づけ（追加）、総合的に事業展開を進めるにあたり、当該地域APとの相乗的な効果を高めるため、【追加】に記載している地域APに統合する。
2	No. 34 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化（日高村） 【実施主体】 (株)屋形船仁淀川、(一社)能津未来、 高知 FORESTVISION(株)、日高村	【拡充】 当該地域APを展開している日高村能津地区のさらなる交流人口の拡大と地域の活性化を図るため、高知 FORESTVISION(株)が行う、精油を用いた新たな体験型観光の取り組みを加え、拡充する。 また、拡充に合わせ、当該地域APの名称を「日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化」に改める。

# 追加項目（案）

追加

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.29 仁淀川町滞在交流型観光の推進 (仁淀川町)		
実施主体	◎仁淀川町、◎(株)ビバ沢渡、◎仁淀川町観光協会、指定管理者		
APへの位置づけ	R5.4月		
事業概要	自然の景観を活かした滞在交流型観光の拠点施設としてキャンプ場やアクティビティ施設の整備を行うとともに、他の観光スポットとの周遊ルートを確認し、滞在交流型観光を推進することで地域の活性化につなげる。		

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) キャンプ場利用者数	-	-	-	-	1,800人
(2) 体験施設利用者数	-	-	-	-	1,000人 (R5.9月～)
(3) 主要観光施設等入込数	76,000人 (H30)	56,149人	65,377人		77,000人

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>【指標の主要観光施設等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設：ゆの森、しもなの郷、宝来荘、秋葉の宿</li> <li>・観光資源：中津溪谷（入浴者）、安居溪谷（レストラン）、花見客（桜、花桃）、秋葉まつり</li> </ul> <p>◆<b>キャンプ場の整備と施設運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内におけるキャンプ場及びトイレ等の整備（ふれあい公園キャンプ場、星ヶ窪キャンプ場、夢の森キャンプ場）</li> <li>・指定管理者制度の導入*（夢の森キャンプ場） * R5.4月～ふれあい公園キャンプ場</li> </ul> <p>◆<b>岩屋川溪谷を活かした滞在交流型観光施設の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型観光アクティビティ事業の検討（R4.4月～）</li> <li>・産業振興アドバイザー制度の活用 ※観光周遊計画の策定(R4.11月～R5.3月) 計5回</li> </ul>	<p>◆<b>関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川町公式ガイドブックの作成及び更新による情報発信（H24～）</li> <li>・観光協会を窓口として情報の集約化を図り、ポータルサイトで情報発信を強化（H25～）</li> <li>・広報誌への掲載や SNS を活用した情報発信を実施（H25～）</li> <li>・町の観光振興に向けて、仁淀川町観光協会を設立（H27.4月）</li> <li>・観光協会を主体とし、関係機関での観光報告会を毎月実施（H27～）</li> <li>・町内事業者に対して、観光資源の素材収集のためのアンケート調査を実施（R2.8～11月）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS を活用した情報発信による観光客の利便性向上</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドア閑散期の利用促進</li> <li>・体験施設への誘客につなげる仕組みづくり</li> <li>・町内観光施設への周遊促進</li> </ul>



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆滞在交流型観光の推進			観光周遊計画の策定	受入環境の整備（キャンプ場整備を除く） 滞在コンテンツの充実 周遊ルートの形成 情報発信・プロモーション	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町、仁淀川町観光協会： 観光周遊計画の策定・実践、施設整備、SNS等を活用した誘客促進、町内観光施設の周遊ルートの形成、リピーター獲得の方策検討、OTA活用の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 誘客促進に関する情報収集、情報発信、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆キャンプ場の整備と施設運営			キャンプ場施設の整備	指定管理者制度による キャンプ場施設の管理運営	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町： 候補地の選定、施設整備</li> <li>●県（地域本部等）： 補助金等各種支援制度に関する活用提案や情報提供</li> <li>●仁淀川町、指定管理者：指定手続、管理運営</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>				
◆岩屋川溪谷を活かした滞在交流型観光施設の整備等				施設の整備 施設の管理運営 遊歩道・案内看板整備 誘客促進に向けた取り組み	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町、(株)びバ沢渡： 施設整備、遊歩道・案内看板の整備、SNS等を活用した誘客促進、観光施設等との連携、リピーター獲得の方策検討、OTA活用の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 誘客促進に関する情報収集、情報発信、関係機関への橋渡し</li> </ul>				
◆関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信	観光情報の収集及び発信の強化			※R5以降は「◆滞在交流型観光の推進」へ移行	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町観光協会、仁淀川町、仁淀川町内の地域づくり団体： 関係機関と連携した情報共有、SNS等を活用した情報発信</li> <li>●県（地域本部）： 県内イベントや町内事業者に関する情報提供、観光報告会への参画によるアドバイス実施、仁淀ブルー観光協議会との連携支援</li> </ul>				
	観光客への効果的なプロモーション活動			※R5以降は「◆滞在交流型観光の推進」へ移行	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町観光協会、仁淀川町： 町内観光スポットにおける観光客の動向調査の実施、地域資源を生かしたツアーの検討、実施</li> <li>●県（地域本部等）： 観光客誘致のため仁淀ブルー観光協議会ほか関係機関との連携支援</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.34 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化</b> (日高村)
<b>実施主体</b>	◎(株)屋形船仁淀川、◎(一社)能津未来、日高村
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川流域の主要な観光資源として屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくりを行い、乗船客の増加による地域の賑わいづくりや発着場をフィールドとしたコミュニティの活性化を進めることで、仁淀川流域の観光振興につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
屋形船乗船者数	6,076人 (H30)	2,710人		8,000人

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>観光客の受入態勢の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、観光拠点整備計画の策定（H24）</li> <li>・屋形船の運航開始（H24.5月）</li> <li>・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備（H26）</li> <li>・産業振興アドバイザー事業を活用した屋形船遊覧ガイド養成研修の開催（H28:5回）</li> <li>・屋形船遊覧ガイド養成により、有償ガイドアナウンスを開始（H28～）</li> <li>・翻訳機の導入（H30）</li> <li>・Wi-Fi環境の整備（R元）</li> <li>・「LOGet! CARD（ロゲットカード）」（日本全国の観光スポットを統一フォーマットでシリーズ化したコレクションカード）事業への参画（R2）</li> <li>・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画の実施（R3.7～8月）</li> <li>・体験プログラムにおける安全管理マニュアル策定事業者として県制度のゴールド認定を取得（R3.9月）</li> <li>・(一社)日高村観光協会、(株)屋形船仁淀川、(一社)能津未来が連携した体験観光プランの造成（R4.10～11月）</li> </ul>	<p>◆<b>国内外に向けた情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェイスブックによる情報発信を開始（H29～）</li> <li>・OTA（インターネット上で取引を行う旅行者）による予約受付を開始（H30～）</li> <li>・Instagramによる情報発信を開始（R3.2月～）</li> </ul> <p>◆<b>(一社)能津未来による集落活動センターの運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能津地区振興計画策定に向けた地域住民による協議（H30）</li> <li>・能津地区振興計画の策定（H31.4月）</li> <li>・(一社)能津未来の設立（R2.8月）</li> <li>・能津集落活動センターミライエオープン（R3.4月）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆屋形船の運行 H24：1隻 → R3：4隻</li> <li>◆ガイド報酬のルール化及びガイド組織の設立により、ガイド養成の体制強化につながった</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上</li> <li>・屋形船の知名度の向上</li> <li>・雨天や冬期(閑散期)の集客に向けた対策</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客の受入態勢の充実	<b>ツアー客の受入強化と観光商品づくり</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川： 雨天時の代替メニューの造成等の検討、村内事業者と連携した観光商品づくり、ツアー客への昼食提供等の集落活動センターと連携した取り組みの実施</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐の観光創生塾等の講座等の紹介</li> </ul>				
	<b>遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川： ガイド募集チラシの配布</li> <li>●(一社)日高村観光協会： ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携強化</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の研修会等の紹介</li> </ul>				
◆国内外に向けた情報発信	<b>観光客誘致のためのインターネットやメディア等を活用した情報発信の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川： OTAを活用した商品販売の継続、(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信</li> <li>●県（地域本部等）： イベント情報等の広報支援、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営	<b>施設整備、集落活動センターの運営</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)能津未来： カフェ及び直販所の運営、体験観光プログラムの実施、地域情報の発信、空き家情報の集約</li> <li>●県（地域本部等）： 協議会の全体会及び役員会等への参画によるアドバイス、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	No.34 <b>日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化</b> (日高村)
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、◎(一社)能津未来、◎高知 FORESTVISION(株)、日高村
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	清流仁淀川の観光屋形船や集落活動センターミライエ、精油工場など、能津地区の魅力的な観光拠点づくりを行い、観光客の増加による地域の賑わいづくりや地域の活力の維持・向上を図ることにより地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
屋形船乗船者数	6,076人 (H30)	2,710人	2,960人		8,000人
精油関係事業の販売額	二	二	二		28百万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆観光客の受入態勢の充実

- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、観光拠点整備計画の策定 (H24)
- ・屋形船の運航開始 (H24.5月)
- ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備 (H26)
- ・産業振興アドバイザー事業を活用した屋形船遊覧ガイド養成研修の開催 (H28:5回)
- ・屋形船遊覧ガイド養成により、有償ガイドアナウンスを開始 (H28～)
- ・翻訳機の導入 (H30)
- ・Wi-Fi環境の整備 (R元)
- ・「LOGet! CARD (ロゲットカード)」(日本全国の観光スポットを統一フォーマットでシリーズ化したコレクションカード) 事業への参画 (R2)
- ・映画「竜とそばかすの姫」とのタイアップ企画の実施 (R3.7～8月)
- ・体験プログラムにおける安全管理マニュアル策定事業者として県制度のゴールド認定を取得 (R3.9月)
- ・(一社)日高村観光協会、(株)屋形船仁淀川、(一社)能津未来が連携した体験観光プランの造成 (R4.10～11月)

◆精油を用いた新たな体験観光拠点の整備

- ・精油製造施設(高知 FORESTVISION(株))の整備に向けた検討(R4.9月～)

◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営

- ・能津地区振興計画策定に向けた地域住民による協議 (H30)
- ・能津地区振興計画の策定 (H31.4月)
- ・(一社)能津未来の設立 (R2.8月)
- ・能津集落活動センターミライエオープン (R3.4月)

◆国内外に向けた情報発信

- ・フェイスブックによる情報発信を開始 (H29～)
- ・OTA (インターネット上だけで取引を行う旅行業者) による予約受付を開始 (H30～)
- ・インスタグラムによる情報発信を開始 (R3.2月～)
- ・屋形船仁淀川ホームページのリニューアル(R4.10月)

<主な成果>

- ◆屋形船の運行: H24: 1隻 → R3: 4隻
- ◆ガイド報酬のルール化及びガイド組織の設立により、ガイド養成の体制強化につながった
- ◆(株)屋形船仁淀川と(一社)能津未来が連携したランチメニューの造成 (R4.10月あゆ王国高知振興ビジョンに位置付け)

<課題>

- ・屋形船の知名度の向上
- ・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上
- ・雨天や冬期(閑散期)の集客に向けた対策
- ・精油体験事業の円滑な実施と誘客の仕組みづくり

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客の受入態勢の充実	<b>ツアー客の受入強化と観光商品づくり</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川： 雨天時の代替メニューの作成等の検討、村内事業者と連携した観光商品づくり、ツアー客への昼食提供等の集落活動センターと連携した取り組みの実施</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐の観光創生塾等の講座等の紹介</li> </ul>				
	<b>遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川： ガイド募集チラシの配布</li> <li>●(一社)日高村観光協会： ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携強化</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の研修会等の紹介</li> </ul>				
◆精油を用いた新たな体験観光拠点の整備				施設整備	施設稼働
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高知 FORESTVISION(株)：高知県産精油の製造及び製造体験事業の実施</li> <li>●県（地域本部等）：既存事業者との連携支援、各種支援制度に関する情報提供・制度活用支援</li> </ul>			新商品の開発及び販路拡大の推進	
◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営	<b>施設整備、集落活動センターの運営</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)能津未来： カフェ及び直販所の運営、体験観光プログラムの実施、地域情報の発信、空き家情報の集約</li> <li>●県（地域本部等）： 協議会の全体会及び役員会等への参画によるアドバイス、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆国内外に向けた情報発信	<b>観光客誘致のためのインターネットやメディア等を活用した情報発信の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)屋形船仁淀川：OTAを活用した商品販売の継続、(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、SNSの活用</li> <li>●高知 FORESTVISION(株)：(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、旅行代理店とのタイアップ、SNSの活用</li> <li>●(一社)能津未来：(一社)日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信、ホームページ、SNSの活用</li> <li>●県（地域本部等）：イベント情報等の広報支援、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No. 1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進 (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)		
実施主体	◎ J A 高知県（仁淀川地区）、◎(農)霧山茶業組合、◎(農)池川茶業組合		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加、輸出用防除暦に沿った茶の生産により、茶生産農家の所得の向上を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
仕上茶販売量	28.4 t (H30)	25.4t	25.6t	30.0 t

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>生産体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶樹の台切り等、茶園の若返りに向けた事業を実施（H24～R元:事業実施者 21名(延べ)、3.5ha）</li> <li>・台切りの実証ほの設置（R元～：2カ所）</li> <li>・新害虫（チャトゲコナジラミ）の発生調査を行い、適期防除の体系を確立（H24～27）</li> <li>・作業の省力化に向けた、自走式茶園管理機の摘採実証ほの設置及び管理機現地実証の実施（H27～）</li> <li>・自走式茶園管理機の実演会開催（R2、R3）</li> </ul> <p>◆<b>販売力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐茶まつりや試飲販売等のイベントに出店（H23～）</li> <li>・県内外量販店での販売促進や土佐茶カフェとの連携による消費拡大PRを実施（H23～）</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、販売強化に向けた研修会を実施（H28～29:7回）</li> <li>・販路開拓や販売拡大に向けて、JGAP認証取得への勉強会の実施（R元:6回）</li> <li>・JA高知県佐川支所が新たな茶製造ラインを整備（R元.5月）</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自走式茶園管理機の導入 R元：1台（仁淀川地域初）</li> <li>◆仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合 H19：38,796千円、6.6% → H30：85,179千円、16.3% R元：70,330千円、22.6%</li> <li>◆JA高知県佐川支所の茶製造ラインによる新商品の開発 R元：新商品数3（釜炒り茶、ウーロン茶、紅茶） R2：ウーロン茶加工マニュアル作成</li> <li>◆茶試：日干番茶試作（R3）</li> <li>◆(農)池川茶業組合におけるGAP確認活動の実施（R3）</li> <li>◆輸出先国の基準に合わせた薬剤の防除効果確認（R3）</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良茶園の維持</li> <li>・自走式茶園管理機の導入拡大による省力化の推進</li> <li>・煎茶、ほうじ茶及び発酵茶等の商品開発</li> <li>・仕上げ茶販売量の増加と販売先の開拓</li> <li>・仁淀川流域茶の知名度向上と消費拡大</li> <li>・輸出用防除暦の効果の検証</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	茶生産における省力化技術の導入と産地の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>自走式茶園管理機の導入拡大、茶園の若返り（茶樹の台切り等）による収量の増加、優良茶園の耕作放棄対策に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議の実施</li> </ul> </li> <li>●県（農業改良普及所等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な自走式茶園管理機導入技術の確立、台切り・改植の推進、茶園のマップ化に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議推進</li> </ul> </li> </ul>				
◆販売力の向上	新商品の開発と新たな販売ルートの開拓				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>消費者のニーズを踏まえた新商品の開発、産地からの継続的な情報発信、販促活動の活性化、輸出への取り組み拡大</li> </ul> </li> <li>●県（農業改良普及所等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>釜炒り茶・ウーロン茶・紅茶の各製茶ライン用マニュアル作成、茶業試験場と連携した新商品開発、地域の茶を用いた食育への取り組み強化、茶生産者への GAP 情報の周知、輸出意向の確認と取り組み内容の支援、輸出用防除暦の薬剤効果の検証</li> </ul> </li> </ul>				
	茶生産法人の JGAP 認証の啓発				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●県（農業改良普及所等）：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>JGAP 認証取得に向けた啓発</li> </ul> </li> </ul>					
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台切り：老齢化等により低下した樹の生育の回復や若返りために、地上 15cm 程度まで茶樹を切り下げること。</li> <li>・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農産物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。</li> <li>・JGAP：農業者が適正に GAP を実践していることを第三者機関が審査し、一定期間認証する GAP 認証制度の一つ。欧州に倣い、国内で平成 17 年度に策定された。</li> </ul>					

修正後

仁淀川地域アクションプラン

分野	農業
----	----

AP名 (実施地域)	<b>No. 1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進</b> (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)
実施主体	◎ J A 高知県 (仁淀川地区) 、◎ (株)霧山茶園、◎ (農)池川茶業組合
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加、輸出用防除暦に沿った茶の生産により、茶生産農家の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
仕上茶販売量	28.4 t (H30)	25.4t	25.6t		30.0 t

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>生産体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶樹の台切り等、茶園の若返りに向けた事業を実施 (H24～R元:事業実施者 21名(延べ)、3.5ha)</li> <li>・台切りの実証ほの設置 (R元～: 2カ所)</li> <li>・新害虫 (チャトゲコナジラミ) の発生調査を行い、適期防除の体系を確立 (H24～27)</li> <li>・作業の省力化に向けた、自走式茶園管理機の摘採実証ほの設置及び管理機現地実証の実施 (H27～)</li> <li>・自走式茶園管理機の実演会開催 (R2、R3)</li> </ul> <p>◆<b>販売力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐茶まつりや試飲販売等のイベントに出店 (H23～)</li> <li>・県内外量販店での販売促進や土佐茶カフェとの連携による消費拡大PRを実施 (H23～)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、販売強化に向けた研修会を実施 (H28～29:7回)</li> <li>・販路開拓や販売拡大に向けて、JGAP 認証取得への勉強会の実施 (R元:6回)</li> <li>・JA 高知県佐川支所が新たな茶製造ラインを整備 (R元.5月)</li> </ul>	<p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自走式茶園管理機の導入 R元: 1台 (仁淀川地域初)</li> <li>◆台切りマニュアルを作成 (R4)</li> <li>◆仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合 H19: 38,796千円、6.6% → H30: 85,179千円、16.3% R元: 70,330千円、22.6%</li> <li>◆JA 高知県佐川支所の茶製造ラインによる新商品の開発 R元: 新商品数3 (釜炒り茶、ウーロン茶、紅茶) R2: ウーロン茶加工マニュアル作成</li> <li>◆茶試: 日干番茶試作 (R3、R4)</li> <li>◆(農)池川茶業組合におけるGAP確認活動の実施 (R3、R4)</li> <li>◆輸出先国の基準に合わせた薬剤の防除効果確認 (R3、R4)</li> <li>◆輸出先国の基準に合わせた防除暦の作成(R3、R4)</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良茶園の維持 (台切り等による樹勢回復)</li> <li>・二番茶・秋冬番茶を活用した日干番茶等の商品開発</li> <li>・輸出先国の基準に合わせた防除暦の更新</li> </ul>



## 第 4 期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">茶生産における省力化技術の導入と産地の強化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、<u>（株）霧山茶園</u>、<u>（農）池川茶業組合</u>： 自走式茶園管理機の導入拡大、茶園の若返り（茶樹の台切り等）による収量の増加、優良茶園の耕作放棄対策に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議の実施</li> <li>●県（農業改良普及所等）： 効率的な自走式茶園管理機導入技術の確立、台切り・改植の推進、茶園のマップ化に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議推進</li> </ul>				
◆販売力の向上	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">新商品の開発と新たな販売ルートの開拓</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、<u>（株）霧山茶園</u>、<u>（農）池川茶業組合</u>： 消費者のニーズを踏まえた新商品の開発、産地からの継続的な情報発信、販促活動の活性化、輸出への取り組み拡大</li> <li>●県（農業改良普及所等）： 釜炒り茶・ウーロン茶・紅茶の各製茶ライン用マニュアル作成、茶業試験場と連携した新商品開発、地域の茶を用いた食育への取り組み強化、茶生産者への GAP 情報の周知、輸出意向の確認と取り組み内容の支援、輸出用防除暦の薬剤効果の検証</li> </ul>				
	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">茶生産法人の JGAP 認証の啓発</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県（農業改良普及所等）： JGAP 認証取得に向けた啓発</li> </ul>				
<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【用語】 ・台切り：老齢化等により低下した樹の生育の回復や若返りために、地上 15cm 程度まで茶樹を切り下げること。</p> <p>・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農産物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。</p> <p>・JGAP：農業者が適正に GAP を実践していることを第三者機関が審査し、一定期間認証する GAP 認証制度の一つ。欧州に倣い、国内で平成 17 年度に策定された。</p> </div>					

# 修正項目 (案)

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

農業

<b>AP 名 (実施地域)</b>	<b>No.3 日高村まるごとブランド化</b> (日高村) ※地域産業クラスター関連 (日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)
<b>実施主体</b>	◎日高村、◎JA 高知県 (仁淀川地区)、JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園、日高村商工会、(特非)日高わのわ会、農事組合法人霧山茶業組合、(株)村の駅ひだか
<b>AP への 位置づけ</b>	H21.4 月
<b>事業概要</b>	高糖度トマト生産における販売戦略や地域ネットワーク、産地間競争力を強化し、生産者の所得向上につなげる。日高村アグリネットワークを活用した特産品等の開発・販売活動や「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進により、日高村の知名度やブランド力の向上を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 農産物等の販売額	5.4 億円	7.51 億円		5.86 億円
(2) 「オムライス街道」によるオムライス販売数	55,475 食	46,965 食		60,000 食
(3) 商品・加工品開発件数	23 件	6 件		25 件
(4) 村外からの移住者数	12 組	9 組		20 組
(5) 新規就農者数	19 名	3 名		4 名

※出発点 (1)は H30、(2)は R 元見込み、(3)(4)(5)は H28～30 累計、目標(3)(4)(5)は R2～5 累計

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>経営管理能力及び生産力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培マニュアルによる栽培技術の平準化 (H21～)</li> <li>・環境制御技術の取り組み開始 (H25～)</li> <li>・JA 出資法人「(株)コスモスアグリサポート」設立 (H28)</li> <li>・(株)イチネン高知日高村農園のトマト栽培参入 (H28)</li> <li>・IoT 技術を活用した生産技術向上に向けた取組 (R2～)</li> </ul> <p>◆<b>農業経営体の確保・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化 (H21～)</li> </ul> <p>◆<b>販売力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全・安心への取り組み強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動 (H21～)</li> </ul> <p>◆<b>日高村アグリネットワークの連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日高村アグリネットワーク会議の開催 (H24～)</li> <li>・県外への特産品等販促活動 (H25～)</li> <li>・日高あぐり大会の開催及び PR 資材の制作 (H26～28)</li> </ul>	<p>◆<b>「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オムライス街道事業の実施 (H26～)</li> <li>・「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の実施計画策定 →H30 産振補助金 (ステップアップ事業) の活用 (事業費 202 万円)</li> <li>・オムライス街道参加店舗の減少に伴う販売食数の減少 H26: 6 店舗 (38,300 食) H29: 11 店舗 (82,905 食) R2: 9 店舗 (46,965 食)</li> <li>・交流拠点施設「Eat &amp; Stay とまと」がオープン (R 元.11 月)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆産地面積の拡大 H27: 8.3ha → R3: 12.05ha</li> <li>◆次世代型環境制御技術の導入拡大による生産技術の強化 導入面積率: H27: 7.1% → R3: 81%</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の営農定着・経営安定に向けた労働力の確保</li> <li>・「日高の未来戦略」を生かした新たな取り組みの創出</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆経営管理能力及び生産力の向上	<p><b>経営改善及び高付加価値化による産地の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園：個別農家の経営改善目標の達成と所得向上、高糖度・高品質生産技術の定着拡大、労働力確保と作業員の効率的な労務管理</li> <li>●県（農業改良普及所等）：個別農家の経営目標策定と経営改善の支援、法人での生産にかかる技術支援、環境制御技術等普及への取り組み強化、「カイゼン」（生産現場の作業効率や安全性確保を見直す活動）手法等を活用した作業の効率化支援</li> </ul>				
◆農業経営体の確保・育成	<p><b>担い手の確保・育成に向けた取り組みの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会：就農希望者からの就農相談への対応、農業研修生受入れ、新規就農者からの相談への対応と地域への定着支援</li> <li>●県（農業改良普及所等）：農地・研修体制・産地提案書・栽培指導などの整備による担い手育成支援、新規就農者を中心とした栽培・経営技術支援の実施、JA 高知県が運営する無料職業紹介所の活用促進</li> </ul>				
◆販売力の向上	<p><b>流通・販売の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、(株)イチネン高知日高村農園：安定した価格での取引拡大による販売単価の向上、産地の知名度向上による有利な条件での販売の拡大</li> <li>●県（農業改良普及所等）：栽培や出荷予測等にかかる技術支援、輸出に向けた国外情報の収集</li> </ul>				
◆日高村アグリネットワークの連携強化	<p><b>日高村及び日高村農産物の知名度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日高村、村内事業者：定期的なアグリネットワーク会議の開催、事業者と連携した販促活動の実施、メディアやインターネットを活用した情報発信</li> <li>●県（地域本部等）：アグリネットワーク会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進	<p><b>実施計画に沿ったプロジェクトの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日高村：プロジェクト推進に係る会議の開催、オムライス街道事業の実施、トマトやオムライスを活かしたローカルブランディング、移住促進策の推進</li> <li>●村内事業者：トマトを活かした商品・加工品開発、オムライス街道事業への参画によるオムライスの販売</li> <li>●県（地域本部等）：プロジェクト推進に係る会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				

仁淀川地域アクションプラン

分野

農業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.3 日高村まるごとブランド化</b> (日高村) ※地域産業クラスター関連 (日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)
<b>実施主体</b>	◎日高村、◎JA高知県(仁淀川地区)、JA高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園、日高村商工会、(特非)日高わのわ会、(株)霧山茶園、(株)村の駅ひだか
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	高糖度トマト生産における販売戦略や地域ネットワーク、産地間競争力を強化し、生産者の所得向上につなげる。日高村アグリネットワークを活用した特産品等の開発・販売活動や「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進により、日高村の知名度やブランド力の向上を図り、交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 農産物等の販売額	5.4億円	7.51億円	7.02億円		7.16億円
(2) 「オムライス街道」によるオムライス販売数	55,475食	46,965食	47,861食		60,000食
(3) 商品・加工品開発件数	23件	6件	5件		25件
(4) 村外からの移住者数	12組	9組	10組		20組
(5) 新規就農者数	19名	3名	2名		4名

※出発点 (1)はH30、(2)はR元見込み、(3)(4)(5)はH28～30累計、目標(3)(4)(5)はR2～5累計

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>経営管理能力及び生産力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培マニュアルによる栽培技術の平準化 (H21～)</li> <li>・環境制御技術の取り組み開始 (H25～)</li> <li>・JA出資法人「(株)コスモスアグリサポート」設立 (H28)</li> <li>・(株)イチネン高知日高村農園のトマト栽培参入 (H28)</li> <li>・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 (R2～)</li> </ul> <p>◆<b>農業経営体の確保・育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成及び産地の体制づくりに向けた組織力の強化 (H21～)</li> </ul> <p>◆<b>販売力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全・安心への取り組み強化、新たな糖度区分による商品開発、販促活動 (H21～)</li> </ul> <p>◆<b>日高村アグリネットワークの連携強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日高村アグリネットワーク会議の開催 (H24～)</li> <li>・県外への特産品等販促活動 (H25～)</li> <li>・日高あぐり大会の開催及びPR資材の制作 (H26～28)</li> </ul>	<p>◆<b>「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オムライス街道事業の実施 (H26～)</li> <li>・「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の実施計画策定 →H30産振補助金(ステップアップ事業)の活用(事業費202万円)</li> <li>・オムライス街道参加店舗の減少に伴う販売食数の減少 H26:6店舗(38,300食) H29:11店舗(82,905食) R3:9店舗(47,861食)</li> <li>・交流拠点施設「Eat &amp; Stayとまと」がオープン(R元.11月)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆産地面積の拡大 H27:8.3ha → R3:12.05ha</li> <li>◆次世代型環境制御技術の導入拡大による生産技術の強化 導入面積率:H27:7.1% → R3:81%</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の営農定着・経営安定に向けた労働力の確保</li> <li>・「日高の未来戦略」を生かした新たな取り組みの創出</li> </ul>
---	--

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆経営管理能力及び生産力の向上	<p><b>経営改善及び高付加価値化による産地の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会、(株)コスモスアグリサポート、(株)イチネン高知日高村農園：個別農家の経営改善目標の達成と所得向上、高糖度・高品質生産技術の定着拡大、労働力確保と作業員の効率的な労務管理</li> <li>●県（農業改良普及所等）：個別農家の経営目標策定と経営改善の支援、法人での生産にかかる技術支援、環境制御技術等普及への取り組み強化、「カイゼン」（生産現場の作業効率や安全性確保を見直す活動）手法等を活用した作業の効率化支援</li> </ul>				
◆農業経営体の確保・育成	<p><b>担い手の確保・育成に向けた取り組みの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県日高支所ハウス園芸部会：就農希望者からの就農相談への対応、農業研修生受入れ、新規就農者からの相談への対応と地域への定着支援</li> <li>●県（農業改良普及所等）：農地・研修体制・産地提案書・栽培指導などの整備による担い手育成支援、新規就農者を中心とした栽培・経営技術支援の実施、JA 高知県が運営する無料職業紹介所の活用促進</li> </ul>				
◆販売力の向上	<p><b>流通・販売の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●JA 高知県（仁淀川地区）、(株)イチネン高知日高村農園：安定した価格での取引拡大による販売単価の向上、産地の知名度向上による有利な条件での販売の拡大</li> <li>●県（農業改良普及所等）：栽培や出荷予測等にかかる技術支援、輸出に向けた国外情報の収集</li> </ul>				
◆日高村アグリネットワークの連携強化	<p><b>日高村及び日高村農産物の知名度の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日高村、村内事業者：定期的なアグリネットワーク会議の開催、事業者と連携した販促活動の実施、メディアやインターネットを活用した情報発信</li> <li>●県（地域本部等）：アグリネットワーク会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆「日高まるごとイタリアンプロジェクト」の推進	<p><b>実施計画に沿ったプロジェクトの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日高村：プロジェクト推進に係る会議の開催、オムライス街道事業の実施、トマトやオムライスを活かしたローカルブランディング、移住促進策の推進</li> <li>●村内事業者：トマトを活かした商品・加工品開発、オムライス街道事業への参画によるオムライスの販売</li> <li>●県（地域本部等）：プロジェクト推進に係る会議への参画、産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

林業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興</b> (仁淀川地域全域)
<b>実施主体</b>	◎林業事業体、森林組合、素材生産業者、製材業者、自伐林家等
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 原木生産量	9.8 万m <sup>3</sup> (H30)	9.5 万m <sup>3</sup>		12.0 万m <sup>3</sup>
(2) 仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量	3.5 万m <sup>3</sup> (H30)	3.7 万m <sup>3</sup>		5.8 万m <sup>3</sup>

### これまでの主な動き

#### <これまでの取り組みの内容>

##### ◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森の工場の樹立や林地の集約化計画を策定（H21～）
- ・路網整備の加速化等による木材増産を目的とした「中央西地区路網整備推進会議」を設立（H29）
- ・市町村単位でのワーキンググループを通じ、路網整備計画を策定（H29～）
- ・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な運用に向けたワーキンググループを実施（H30～）

##### ◆事業体の育成

- ・森林組合経営改善事業により、管内の2森林組合が中期経営計画に基づく進捗管理や経営の実態分析・利益確保に向けた取り組みを実施（H27～）
- ・経営基盤の強化及び生産性の向上等を図るため事業戦略づくりを支援（R2～）

##### ◆需給調整体制の整備

- ・「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向けた高密度路網の整備や高性能林業機械の導入（H28～）
- ・地域林業の成長と資源の循環利用を目的とした「高吾北地域原木安定供給協議会」の設立（H29）

##### ◆大型製材工場の生産・経営力の強化

- ・池川木材工業(有)が県からの指導も受け、原木調達量や稼働状況等を管理し、市場動向を踏まえた運営を実施（H26～）
- ・池川木材工業(有)が、木材加工流通施設整備事業費補助金を活用し、CLT用ラミナ生産施設を整備（H28.3月）

#### <主な成果>

##### ◆池川木材工業(有)の原木利用量

H30：2.2 万m<sup>3</sup>、R元：1.9 万m<sup>3</sup>、R2：1.6 万m<sup>3</sup>

##### ◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森林経営計画の認定 R3.4.1 現在：3,390ha
- ・森の工場の新規設定 H30：2 団地、R元：4 団地、R2：3 団地
- ・森林経営管理制度の市町村支援体制を整備（H30～）

##### ◆事業体の育成

- ・高知中央森林組合：オートジョーカー（無線式自動荷外し器）及び繊維ロープにより生産性が向上（H30）
- ・仁淀川森林組合：繊維ロープにより生産性が向上（H30）

##### ◆需給調整体制の整備

- ・高性能林業機械の導入（H30：6 台、R2：3 台）
- ・仁淀川林産協同組合に選別機を導入（H30）
- ・林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備（H29）
- ・スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る日報管理・原木流通情報システムを導入（R2～）
- ・林業振興センター（仮称）の起工（R3）

#### <課題>

- ・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保
- ・林業事業体の経営や技術力の継続的な向上
- ・森林経営管理制度の円滑な運用
- ・製材工場への安定的な供給体制の構築
- ・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施業地確保や集約化による原木生産推進	<p><b>市町村と林業事業者等の連携による施業の集約化と原木生産の拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業者、森林組合： 森林所有者との合意形成による事業地の確保</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村： 高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業者の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供 新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続</li> </ul>				
◆事業者の育成	<p><b>林業事業者の経営基盤強化と人材の育成・確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業者、森林組合： 施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、町： 森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再造林の推進 林業事業者の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援 林業大学卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続</li> </ul>				
◆需給調整体制の整備	<p><b>林業振興センター（仮称）の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： 木材の生産・販売・流通を一括管理するための、「林業振興センター（仮称）」の施設整備</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 「林業振興センター（仮称）」の整備に向けた取り組みを支援</li> </ul> <p><b>川上と川中、川下の情報共有及び需給調整体制の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： 「林業振興センター（仮称）」整備後の運営</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援 需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援</li> </ul>				
◆大型製材工場の生産・経営力の強化	<p><b>安定的な供給体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●県（本庁、林業事務所等）、町： 仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援 定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化 流通に関する情報提供、セミナー等の紹介</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興</b> (仁淀川地域全域)
<b>実施主体</b>	◎林業事業体、森林組合、素材生産業者、製材業者、自伐林家等
<b>APへの位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川流域における原木生産の増加及び安定供給に取り組むことにより、加工・流通の安定化を促進し林業・木材産業の振興を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 原木生産量	9.8 万 <sup>3</sup> m (H30)	9.5 万 <sup>3</sup> m	10.3 万 <sup>3</sup> m		12.0 万 <sup>3</sup> m
(2) 仁淀川林産協同組合 集材センター集荷量	3.5 万 <sup>3</sup> m (H30)	3.7 万 <sup>3</sup> m	3.6 万 <sup>3</sup> m		5.8 万 <sup>3</sup> m

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森の工場の樹立や林地の集約化計画を策定 (H21～)
- ・路網整備の加速化等による木材増産を目的とした「中央西地区路網整備推進会議」を設立 (H29)
- ・市町村単位のワーキンググループを通じ、路網整備計画を策定 (H29～)
- ・森林経営管理法に基づく森林経営管理制度の円滑な運用に向けたワーキンググループを実施 (H30～)

◆事業体の育成

- ・森林組合経営改善事業により、管内の2森林組合が中期経営計画に基づく進捗管理や経営の実態分析・利益確保に向けた取り組みを実施 (H27～)
- ・経営基盤の強化及び生産性の向上等を図るため事業戦略づくりを支援 (R2～)

◆需給調整体制の整備

- ・「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向けた高密度路網の整備や高性能林業機械の導入 (H28～)
- ・地域林業の成長と資源の循環利用を目的とした「高吾北地域原木安定供給協議会」の設立 (H29)

◆大型製材工場の生産・経営力の強化

- ・池川木材工業(有)が県からの指導も受け、原木調達量や稼働状況等を管理し、市場動向を踏まえた運営実施(H26～)
- ・池川木材工業(有)が、木材加工流通施設整備事業費補助金を活用し、CLT用ラミナ生産施設を整備 (H28.3月)

＜主な成果＞

◆池川木材工業(有)の原木利用量

H30 : 2.2 万<sup>3</sup>m、R元 : 1.9 万<sup>3</sup>m、R2 : 1.6 万<sup>3</sup>m、R3 : 1.6 万<sup>3</sup>m

◆施業地確保や集約化による原木生産推進

- ・森林経営計画の認定 R4.4.1 現在 : 3,096ha
- ・森の工場の新規設定 H30 : 2 団地、R元 : 4 団地、R2 : 3 団地、R3 : 7 団地
- ・森林経営管理制度の市町村支援体制を整備 (H30～)

◆事業体の育成

- ・高知中央森林組合:オートジョーカー(無線式自動荷外し器)及び繊維ロープにより生産性が向上 (H30)
- ・仁淀川森林組合:繊維ロープにより生産性が向上 (H30)

◆需給調整体制の整備

- ・高性能林業機械の導入(H30 : 6 台、R2 : 3 台、R3 : 2 台)
- ・仁淀川林産協同組合に選別機を導入 (H30)
- ・林業成長産業化地域創出モデル事業がスタートし、佐川町・越知町・仁淀川町が一体で高吾北地域原木安定供給協議会を設立し、木材生産・流通体制を整備 (H29)
- ・スマート林業の取り組みの中で、仁淀川林産協同組合に素材情報の蓄積・共有を図る日報管理・原木流通情報システムを導入 (R2～)
- ・仁淀川町林業振興センターの竣工 (R4)

＜課題＞

- ・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保
- ・林業事業体の経営や技術力の継続的な向上
- ・森林経営管理制度の円滑な運用
- ・製材工場への安定的な供給体制の構築
- ・新型コロナウイルス感染症による社会構造の変化への対応



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施業地確保や集約化による原木生産推進	<p>市町村と林業事業体等の連携による施業の集約化と原木生産の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業体、森林組合： 森林所有者との合意形成による事業地の確保</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、市町村： 高度な森林資源情報の早期把握と増産に向けた新たな事業地の確保を進め、原木生産の増大及び事業体の安定経営に向けた取り組みを支援、各種支援制度に関する情報提供 新たにスタートした森林経営管理制度が円滑に運用できるように林業事務所ワーキンググループと市町村の個別訪問等により支援を継続</li> </ul>				
◆事業体の育成	<p>林業事業体の経営基盤強化と人材の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●林業事業体、森林組合： 施業の集約化、事業地の確保、路網や集材等に関する作業システムの見直し・改善</li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）、町： 森林組合の施業集約化の促進及び複数年の事業地確保に向けた支援並びに皆伐・再造林の推進 林業事業体の施業地における路網や集材等の作業システムの改善に向けた取り組みを支援 林業大学卒業生や仁淀川町林業研修生への巡回指導及び意見交換会など、人材育成に向けたフォローアップを継続</li> </ul>				
◆需給調整体制の整備	<p>仁淀川町林業振興センターの整備・運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： 木材の生産・販売・流通を一括管理するための、<u>仁淀川町林業振興センターの整備・運営支援</u></li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： <u>仁淀川町林業振興センターの整備・運営</u>に向けた取り組みを支援</li> </ul> <p>川上と川中、川下の情報共有及び需給調整体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●仁淀川町森林管理推進協議会： <u>仁淀川町林業振興センターの整備後の運営</u></li> <li>●県（本庁、林業事務所、森林技術センター等）： 仁淀川町、越知町、佐川町で取り組む「林業成長産業化地域創出モデル事業」の推進に向け、高精度の森林資源情報をベースとした施業提案作成ソフトの開発及び活用に向けた取り組みを支援 需給調整体制の整備を図るため、高性能林業機械の導入を支援</li> </ul>				
◆大型製材工場の生産・経営力の強化	<p>安定的な供給体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●県（本庁、林業事務所等）、町： 仁淀川林産協同組合集材センターの集荷量の増加にともなう流域からの大型製材工場への安定的な供給体制を支援 定期協議を通じた原木調達量や稼働状況の情報共有、市場動向を踏まえた運営等の指導強化 流通に関する情報提供、セミナー等の紹介</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

林業

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト</b> （佐川町）
<b>実施主体</b>	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体
<b>APへの位置づけ</b>	H27.4月
<b>事業概要</b>	自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 林業関連新規就業者数	17人 (H28～R元累計)	5人		20人
(2) 山林の集約化面積	225ha (H28～30累計)	113ha		400ha

### これまでの主な動き

#### <これまでの取り組みの内容>

##### ◆自伐型林業の確立

- ・佐川町自伐型林業推進協議会の設立（H26.3月）
- ・地域おこし協力隊（自伐型林業）の採用（H26～）
- ・自伐型林業研修の開催（H26～）
- ・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林 ICT プラットフォーム」を構築（H28.5月）
- ・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施（H28～）
- ・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結（H28～）

##### ◆低質材の活用促進

- ・佐川町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター（仮称）」の整備事業計画を策定（R元）

##### ◆さかわ産木材を活用したものづくりの推進

- ・デジタルファブリケーションを活用したものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所（H28.4月）

- ・地域おこし協力隊（ものづくり関連）の採用（H28～）
- ・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催（H28～）
- ・町内で製作した町産材のおもちゃを赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始（H30～）
- ・地域おこし協力隊 OB への委託による佐川町産木材を活用した商品開発（R2）

#### <主な成果>

- ◆自伐型林業研修参加者数  
H28～R2：384名（延人数）
- ◆さかわ発明ラボ施設利用者数  
H28～R2：1,539名（延人数）

#### <課題>

- ・自伐型林業を担う人材の育成・確保
- ・自伐型林業のビジネスモデルの構築
- ・低質材等の利活用
- ・さかわ発明ラボの運営体制の確立
- ・道の駅へのものづくり機能のあり方

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自伐型林業の 確立	林業従事者の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 地域おこし協力隊の採用、自伐型林業研修の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供等</li> </ul>				
	産業として成立するビジネスモデルの構築				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 林地の集約化の推進、継続的・安定的な施業環境の整備</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供等</li> </ul>				
◆低質材の活用 促進	森林資源フル活用センター（仮称）の整備検討				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 低質材等の利活用に向けた検討、森林資源フル活用センター（仮称）施設整備の検討、</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆さかわ産木材 を活用したも のづくりの推 進	さかわ発明ラボ運営体制の確立及びものづくりに関する人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、さかわ発明ラボ： 運営体制の検討、低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し</li> </ul>				

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト</b> (佐川町)
<b>実施主体</b>	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体
<b>APへの位置づけ</b>	H27.4月
<b>事業概要</b>	自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 林業関連新規就業者数	17人 (H28～R元累計)	5人	9人		20人 (R2～5累計)
(2) 山林の集約化面積	225ha (H28～30累計)	113ha	186ha		400ha (R2～R5累計)

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>自伐型林業の確立</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町自伐型林業推進協議会の設立(H26.3月)</li> <li>・地域おこし協力隊(自伐型林業)の採用(H26～)</li> <li>・自伐型林業研修の開催(H26～)</li> <li>・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林ICTプラットフォーム」を構築(H28.5月)</li> <li>・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施(H28～)</li> <li>・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結(H28～)</li> </ul> <p>◆<b>低質材の活用促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター(仮称)」の整備事業計画を策定(R元)</li> <li>・「森林資源フル活用センター(仮称)」の整備計画を中止(R4)</li> <li>・町産材活用のため、簡易製材機を導入(R4)</li> </ul> <p>◆<b>さかわ産木材を活用したものづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルファブリケーションを活用したものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所(H28.4月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊(ものづくり関連)の採用(H28～)</li> <li>・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催(H28～)</li> <li>・町内で製作した町産材のおもちゃを赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始(H30～)</li> <li>・地域おこし協力隊OBへの委託による佐川町産木材を活用した商品開発(R2)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自伐型林業研修参加者数 H28～R3: 410名(延人数)</li> <li>◆さかわ発明ラボ施設利用者数 H28～R3: 2,018名(延人数)</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自伐型林業を担う人材の育成</li> <li>・継続的・安定的な施業環境の整備</li> <li>・町産材(低質材を含む)を活用したものづくりの推進</li> <li>・学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成</li> </ul>
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自伐型林業の 確立	<b>林業従事者の確保・育成</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 地域おこし協力隊の採用、自伐型林業研修の実施</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供等</li> </ul>				
	<b>産業として成立するビジネスモデルの構築</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 林地の集約化の推進、継続的・安定的な施業環境の整備</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供等</li> </ul>				
◆低質材の活用 促進	<b>森林資源フル活用センター（仮称）の 整備検討</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： 低質材等の利活用に向けた検討、 森林資源フル活用センター（仮称） 施設整備の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、 産業振興総合補助金の活用検討、 各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>低質材利活用の仕組みづくり</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町： <u>簡易製材機の導入及び活用方法の検討、 木材乾燥場所の確保</u></li> <li>●県（地域本部等）： <u>産業振興アドバイザーの活用提案、 各種支援制度に関する情報提供</u></li> </ul>				
◆さかわ産木材 を活用したも のづくりの推 進	<b>さかわ発明ラボ運営体制の確立及びものづくりに関する人材育成</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、さかわ発明ラボ： 運営体制の検討、低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したものづく りを通じた人材育成</li> <li>●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し</li> </ul>				

# 修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.14 「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化 (土佐市)		
実施主体	◎土佐市商工会、土佐市		
APへの 位置づけ	H23.4月		
事業概要	観光案内機能や農産物等の直販所などを備えた拠点施設「ドラゴン広場」を核として、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
施設直販市での販売額	5,438人 (H30)	5,262万円	4,822万円	5,900万円

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画の策定(H24.1月)</li> <li>・「ドラゴン広場」整備(H24.10月) →H24 産振補助金の活用 (事業費約 1 億 700 万円)</li> <li>・「ドラゴン広場」オープン (H25.4月)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、「ドラゴン広場」の安定運営を検討 →施設の運営体制・管理方法、PR 戦略等の情報発信 (H24 : 7回)</li> <li>→施設の管理・運営方法の改善 (H26 : 5回)</li> <li>→お弁当・加工品開発及びブラッシュアップ (H27 : 2回)</li> <li>→塚地坂の観光ガイド育成、土佐市の交流人口の拡大 (H29:5回)</li> <li>・施設の魅力向上及びテナント間の連携を目的として、テナント会を毎月開催 (H25～)</li> <li>・ドラゴン広場運営協議会を設立し、運営改善に向けた協議を実施 (H26～ : 12回)</li> <li>・チャレンジショップの開設(H28～H29)</li> <li>・経営の安定化及び集客増を目的として、土佐市商工会が民間事業者とコンサルティング業務契約を締結 (H31.4月)</li> <li>・定期的なイベントの開催(七夕祭り、ビアホール、ハロウィンイベント) (R元 : 3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土佐市青年団とイベント(ドラゴン夜市)を共催 R2 : 2回、R3 : 1回</li> <li>・高知県あんしん会食推進の店認証取得 (R3)</li> <li>・調理室・加工場の「HACCPに沿った衛生管理」の実施を開始 (R3)</li> <li>・イベントスペースの増設 (R3)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集客施設の新設により、中心市街地の新しい人の流れ・賑わいの創出</li> <li>・チャレンジショップ参加事業者のうち 1 テナントが正規テナントとして出店(H30.4月)</li> <li>・イベント来場者数</li> <li>・定期的なイベント (R元 : 3回) : 1,629人</li> <li>・ドラゴン夜市(R2 : 2回) : 1,638人 (R3 : 1回) : 1,344人</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ドラゴン広場」の安定的な施設運営</li> <li>・継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信</li> <li>・高岡商店街及び周辺地域を巻き込んだ地域活性化</li> </ul>

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p>	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">                     経営改善による集客施設の安定した運営                 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐市：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営に関する支援、広報でのイベント情報の発信</li> </ul> </li> <li>●土佐市商工会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>月1定例イベント開催（高齢者向け食堂、学習塾等）による地域でのドラゴン広場の認知度向上に向けた取り組み（通年）</li> <li>テナントが一体となった集客策の検討（通年）</li> <li>定期的なテナント会（月1回）の開催による施設の魅力向上、品揃えの充実に向けた取り組み（通年）</li> <li>外国人住民を含む地域住民のコミュニケーションの場（体験教室等）の提供（通年）</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、テナント会への参画による施設運営に関するアドバイス（通年）</li> </ul> </li> </ul>				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">                     地域商店街と一体となったイベントの開催及びツアー客の誘致                 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐市：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>広報による情報発信（通年）</li> </ul> </li> <li>●土佐市商工会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ドラゴン広場を中心とし、高岡商店街を巻き込んだイベント開催の調整（ひなおきゃく等）（通年）</li> <li>仁淀ブルー観光協議会、土佐市観光協会と連携した誘客策の実施（通年）</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年）</li> </ul> </li> </ul>				

仁淀側地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.14 「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化 (土佐市)		
実施主体	◎土佐市商工会、土佐市		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	観光案内機能や農産物等の直販所などを備えた拠点施設「ドラゴン広場」を核として、テナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域商業の振興につなげる。		

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
施設直販市での販売額	5,438人 (H30)	5,262万円	4,822万円		5,900万円

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本計画の策定(H24.1月)</li> <li>「ドラゴン広場」整備(H24.10月) →H24 産振補助金の活用 (事業費約1億700万円)</li> <li>「ドラゴン広場」オープン(H25.4月)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、「ドラゴン広場」の安定運営を検討 →施設の運営体制・管理方法、PR戦略等の情報発信(H24:7回) →施設の管理・運営方法の改善(H26:5回) →お弁当・加工品開発及びブラッシュアップ (H27:2回) →塚地坂の観光ガイド育成、土佐市の交流人口の拡大(H29:5回)</li> <li>施設の魅力向上及びテナント間の連携を目的として、テナント会を毎月開催(H25~)</li> <li>ドラゴン広場運営協議会を設立し、運営改善に向けた協議を実施(H26~:12回)</li> <li>チャレンジショップの開設(H28~H29)</li> <li>経営の安定化及び集客増を目的として、土佐市商工会が民間事業者とコンサルティング業務契約を締結(H31.4月)</li> <li>定期的なイベントの開催(七夕祭り、ビアホール、ハロウィンイベント)(R元:3回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土佐市青年団とイベント(ドラゴン夜市)を共催 R2:2回、R3:1回</li> <li>高知県あんしん会食推進の店認証取得(R3)</li> <li>調理室・加工場の「HACCPに沿った衛生管理」の実施を開始(R3)</li> <li>イベントスペースの増設(R3)</li> <li>商店街振興計画策定に向けた関係者協議 (R4.4月~)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集客施設の新設により、中心市街地の新しい人の流れ・賑わいの創出</li> <li>チャレンジショップ参加事業者のうち1テナントが正規テナントとして出店(H30.4月)</li> <li>イベント来場者数</li> <li>定期的なイベント(R元:3回):1,629人</li> <li>ドラゴン夜市(R2:2回):1,638人 (R3:1回):1,344人</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ドラゴン広場」の安定的な施設運営</li> <li>継続的な集客につなげるための店舗の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信</li> <li>高岡商店街及び周辺地域を巻き込んだ地域活性化</li> </ul>



## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p>	<b>経営改善による集客施設の安定した運営</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐市：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営に関する支援、広報でのイベント情報の発信</li> </ul> </li> <li>●土佐市商工会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>月1定例イベント開催（高齢者向け食堂、学習塾等）による地域でのドラゴン広場の認知度向上に向けた取り組み（通年）</li> <li>テナントが一体となった集客策の検討（通年）</li> <li>定期的なテナント会（月1回）の開催による施設の魅力向上、品揃えの充実に向けた取り組み（通年）</li> <li>外国人住民を含む地域住民のコミュニケーションの場（体験教室等）の提供（通年）</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>施設運営に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、テナント会への参画による施設運営に関するアドバイス（通年）</li> </ul> </li> </ul>				
	<b>地域商店街と一体となったイベントの開催及びツアー客の誘致</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐市：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>広報による情報発信（通年）</li> </ul> </li> <li>●土佐市商工会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ドラゴン広場を中心とし、高岡商店街を巻き込んだイベント開催の調整（ひなおきゃく等）（通年）</li> <li>仁淀ブルー観光協議会、土佐市観光協会と連携した誘客策の実施（通年）</li> </ul> </li> <li>●県(地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年）</li> </ul> </li> </ul>				
	<b>商店街振興計画の協議・策定・実施</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土佐市：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐市商工会と連携した商店街振興計画の協議及び策定</li> </ul> </li> <li>●土佐市商工会：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>土佐市と連携した商店街振興計画の協議及び策定</li> </ul> </li> <li>●県(商工労働部、地域本部等)：                             <ul style="list-style-type: none"> <li>計画策定に対する支援</li> </ul> </li> </ul>				

# 修正項目 (案)

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	商工業
AP名 (実施地域)	No.19 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進 (仁淀川町)		
実施主体	◎(株)ビバ沢渡、◎(株)池川茶園、◎トトレ(株)、仁淀川町		
APへの位置づけ	H28.9月		
事業概要	仁淀川町の基幹品目である茶をはじめとした農業者の経営持続を図るため、農産物の高付加価値化を進め、6次産業化の推進を図る。		

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) (株)ビバ沢渡の販売額※1	5,200万円 (H30)	5,630万円		1億円
(2) (株)池川茶園及びトトレ(株)の販売額※2	4,700万円 (H30)	4,870万円		5,000万円

※1 会計年度：2～1月 ※2 (株)ビバ沢渡の会計年度に合わせて集計

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザーを導入して、事業拡大に向けた拠点施設の検討 (H26:5回)</li> <li>農林水産物加工商品開発支援アドバイザーを導入して、拠点施設で提供する商品開発を実施 (H26:2回)</li> <li>拠点施設となるカフェ「茶農家の店 あすなる(本店：仁淀川町内)」をオープン (H30.3月) →H29産振補助金の活用(事業費4,400万円)</li> <li>沢渡茶を使用したドリンクメニューを提供する新規店舗をオープン 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 2号店(高知市葛屋書店内)」(H30.12月) 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 3号店(帯屋町)」(R元.11月～R2.10月末)</li> <li>産業振興アドバイザーを導入して、(株)ビバ沢渡の事業拡大に向けた組織体制を強化 (R元:3回)</li> <li>加工品製造の拠点施設を整備 →R3産振特別支援補助金の活用(事業費1,400万円)</li> </ul> <p>◆茶等を原料とした6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知商業高校、城西館、(株)ビバ沢渡が連携して、新商品の「グローバルバウムクーヘン」を開発 (H30.10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内外での商談会出展やイベント等への出店 (H28～)</li> <li>ビバ沢渡がお茶を使ったミルクジャム「SAWATARICHAJAM」を開発 (R元.4月)</li> <li>産業振興アドバイザー(課題解決型)を導入して、(株)ビバ沢渡の新商品開発を実施 (R2:3回) →「土佐のさわたり生茶漬け」を開発・販売 (R2.9月～)</li> <li>「沢渡茶ようかん」を開発・販売 (R3.9月～)</li> </ul> <p>◆後継者及び担い手の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内の茶生産者が連携して茶の収穫、茶畑の管理に取り組み、地元雇用が拡大</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <p>◆雇用の創出</p> <p>H28:12人(正規3人 パート9人) →R2:47人(正規9人 パート38人)</p> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブランド化の確立に向けた情報発信の推進</li> <li>産業を持続させるための後継者及び担い手の確保</li> </ul>

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆茶等を原料とした6次産業化の推進	<b>基幹品目である茶等を原料とした商品の開発・改良</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 新商品開発、店舗で提供する飲食等新メニューの開発、商品改良、商品化の実現、新たな加工品製造拠点の検討・整備</li> <li>●県（地域本部等）： 新商品開発や既存商品のブラッシュアップへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>戦略的な販売活動による仁淀川町産ブランドの確立と展開</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 物販機能の強化、商談会等への出展による販路拡大、イベント出店による情報発信、県版 HACCP の認証取得、地域ならではのストーリー性を持った商品の展開と顧客への訴求、マスコミを通じた PR</li> <li>●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援</li> </ul>				
◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化	<b>さらなる店舗展開に向けた検討（県内外）</b>		<b>新規店舗の開業準備、組織体制の強化</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡： 候補地の検討、資金準備、店舗展開に向けた人材育成マニュアルの作成</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡： 従業員等人材の確保、作成したマニュアルに基づく人材育成</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（移住施策や地域おこし協力隊など）、体制強化などに関する産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
◆後継者及び担い手の確保・育成	<b>事業拡大に向けた人員体制の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による労働力の確保</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など）</li> </ul>				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.19 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進 (仁淀川町)
実施主体	◎(株)ビバ沢渡、◎(株)池川茶園、◎トトレ(株)、仁淀川町
APへの位置づけ	H28.9月
事業概要	仁淀川町の基幹品目である茶をはじめとした農産物の経営持続を図るため、農産物の高付加価値化を進め、6次産業化の推進を図る。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) (株)ビバ沢渡の販売額※1	5,200万円 (H30)	5,630万円	6,260万円		1億円
(2) (株)池川茶園及びトトレ(株)の販売額※2	4,700万円 (H30)	4,870万円	5,140万円		5,000万円

※1 会計年度：2～1月 ※2 (株)ビバ沢渡の会計年度に合わせて集計

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化

- ・産業振興アドバイザー制度の活用
  - 事業拡大に向けた拠点施設の検討 (H26:5回)
  - 事業拡大に向けた組織体制を強化 (R元:3回)
  - 経営改善計画の策定(R4:10回)
- ・農林水産物加工商品開発支援アドバイザー制度の活用
  - 拠点施設で提供する商品開発 (H26:2回)
- ・拠点施設 カフェ「茶農家の店 あすなる(本店:仁淀川町内)」をオープン (H30.3月)
  - H29 産振補助金の活用(事業費4,400万円)
- ・沢渡茶を活用したドリンクを提供する新規店舗オープン
  - 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 2号店(高知市鳶屋書店内)」(H30.12月～R4.9月)
  - 「CHA CAFE ASUNARO 沢渡茶 3号店(帯屋町)」(R元.11月～R2.10月末)
- ・加工品製造の拠点施設を整備
  - R3 産振特別支援補助金の活用(事業費1,400万円)

◆茶等を原料とした6次産業化の推進

- ・高知商業高校、城西館、(株)ビバ沢渡が連携して、新商品の「グローバルバウムクーヘン」を開発 (H30.10月)
- ・県内外での商談会出展やイベント等への出店 (H28～)
- ・ビバ沢渡がお茶を使ったミルクジャム「SAWATARICHAJAM」を開発 (R元.4月)

- ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を導入して、(株)ビバ沢渡の新商品開発を実施 (R2:3回)
  - 「土佐のさわたり生茶漬け」を開発・販売 (R2.9月～)
- ・「沢渡茶ようかん」を開発・販売 (R3.9月～)
- ・サンシャイン、菊水酒蔵との共同開発商品の販売
  - 「ほうじ茶ラテ風味リキュール」(R4.5月～)
  - 「紅茶ラテ風味リキュール」(R4.12月～)
- ・「高知の魅力発信プロジェクト」(高知銀行)により、「茶畑ティラミス濃かぶせ茶」の商品改良、販売 (R4.10月～)

◆後継者及び担い手の確保・育成

- ・町内の茶生産者が連携して茶の収穫、茶畑の管理に取り組み、地元雇用が拡大

<主な成果>

◆雇用の創出

- H28:12人(正規3人パート9人)
- R3:44人(正規10人パート34人)

<課題>

- ・ブランド化の確立に向けた情報発信の推進
- ・産業を持続させるための後継者及び担い手の確保
- ・町全体の体験型観光の推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆茶等を原料とした6次産業化の推進	<b>基幹品目である茶等を原料とした商品の開発・改良</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 新商品開発、店舗で提供する飲食等新メニューの開発、商品改良、商品化の実現、新たな加工品製造拠点の検討・整備</li> <li>●県（地域本部等）： 新商品開発や既存商品のブラッシュアップへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
	<b>戦略的な販売活動による仁淀川町産ブランドの確立と展開</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 物販機能の強化、商談会等への出展による販路拡大、イベント出店による情報発信、県版 HACCP の認証取得、地域ならではのストーリー性を持った商品の展開と顧客への訴求、マスコミを通じた PR</li> <li>●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、高知県地産外商公社・関係機関との連携支援</li> </ul>				
◆(株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化	<b>さらなる店舗展開に向けた検討（県内外）</b>		<b>持続可能な経営基盤の確立・強化</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡： 候補地の検討、資金準備、店舗展開に向けた人材育成マニュアルの作成</li> <li>●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡： 経営改善計画の策定・実践</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（移住施策や地域おこし協力隊など）、体制強化などに関する産業振興アドバイザーの活用提案</li> </ul>		
◆後継者及び担い手の確保・育成	<b>事業拡大に向けた人員体制の強化</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(株)ビバ沢渡、(株)池川茶園、トトレ(株)： 町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による労働力の確保</li> <li>●仁淀川町、県（地域本部等）： 人材確保に向けた関係機関の情報提供（役場、移住施策や地域おこし協力隊など）</li> </ul>				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

商工業

AP名 (実施地域)	No.20 さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 (佐川町)
実施主体	◎(有)吉本乳業、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県（仁淀川地区）
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
牛乳類商品販売額※	1.06 億円 (R元)	1.1 億円	1.18 億円	1.57 億円

※ 会計年度：8～7月

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農商工連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置（H22.7月）</li> <li>・地乳 PR 用広報・販促物を整備 →H22、H23 産振補助金の活用 （事業費 516 万 1 千円）</li> <li>・地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「ぢちちブランド」として PR 開始（H26～）</li> <li>・佐川ものづくり支援事業補助金を活用し、地元農産物等を使った加工品の開発（H27～30:7 件）</li> <li>・さかわ地乳まつりの開催（H27～）</li> <li>・畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議（H26、H27:2 回）</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討（H28:3 回）</li> <li>・地元高校生と連携した新商品開発及び PR イベントの実施（H28～）</li> </ul> <p>◆<b>牛乳加工施設の整備及び販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設（H26）</li> <li>・HACCP アドバイザーによる現地指導を実施（H28:1 回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さかわの地乳製造施設を整備（H29.3月） →H28 産振補助金の活用 （事業費 3,191 万 4 千円）</li> <li>・地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出展（H29～）</li> <li>・高知県地域産品地産地消推進事業費補助金を活用した宅配キャンペーンの実施（R3）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地乳ブランド PR イベント（さかわの地乳祭り）の開催 H27～R元：4 回</li> <li>◆地乳ブランド販促物の作成 H22～30：4 種類</li> <li>◆宅配キャンペーンによる新規成約件数 R3：34 件</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地乳を活用した新商品の開発検討</li> <li>・商品の PR 強化</li> <li>・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化</li> <li>・衛生管理体制の強化</li> <li>・販路拡大に向けた商談会等での販売促進</li> </ul>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：加工品の開発及び磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討</li> </ul>				
	販売促進の体制強化、地乳ブランドのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地乳プロジェクト推進会議、佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳PRイベント等の開催</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	HACCP 認証取得			衛生管理体制の強化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業：県版 HACCP 新第2ステージの認証取得に向けた社内体制の構築</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)：各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業：県版 HACCP に基づく衛生管理手順の遵守</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)：各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>	
	県内での消費拡大・県外量販店等への販路拡大				
<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業、地元商工業者：積極的な商談会等への出展、プロモーション活動の実施</li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul>					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.20 さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 (佐川町)
実施主体	◎(有)吉本乳業、地元商工業者、地元酪農家、佐川町商工会、佐川町、JA 高知県 (仁淀川地区)
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	佐川町の特産である「さかわの地乳(ぢちち)」を使い、地元の事業者が特長のある商品づくりを行うとともに、販売促進のための仕組みを構築することで地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
牛乳類商品販売額※	1.06 億円 (R元)	1.1 億円	1.18 億円	1.15 億円	1.57 億円

※ 会計年度：8～7月

これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農商工連携による地乳の販売促進に向けた「さかわの地乳プロジェクト推進会議」を設置 (H22.7月)</li> <li>・産振補助金を活用し、地乳 PR 用広報・販促物を整備 (H22、23)</li> <li>・地乳商品認定要綱を策定し、25 品目の商品を「ぢちちブランド」として PR 開始 (H26～)</li> <li>・佐川ものづくり支援事業補助金を活用し、地元農産物等を使った加工品の開発 (H27～30:7 件)</li> <li>・さかわ地乳まつりの開催 (H27～)</li> <li>・畜産アドバイザーを導入して、地乳を活用した加工品開発や販促活動について協議 (H26、H27:2 回)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、地域資源を活用した効果的なイベント展開を検討 (H28:3 回)</li> <li>・地元高校生と連携した新商品開発及び PR イベントの実施 (H28～)</li> </ul> <p>◆<b>牛乳加工施設の整備及び販路拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業を活用して製乳設備を増設 (H26)</li> <li>・HACCP アドバイザーによる現地指導を実施 (H28:1 回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産振補助金を活用し、さかわの地乳製造施設を整備 (H28)</li> <li>・地乳製品の販路開拓・販売拡大に向けた商談会への出展 (H29～)</li> <li>・高知県地域産品地産地消推進事業費補助金を活用した宅配キャンペーンの実施 (R3)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地乳ブランド PR イベント (さかわの地乳祭り) の開催 H27～R 元：4 回</li> <li>◆地乳ブランド販促物の作成 H22～30：4 種類</li> <li>◆宅配キャンペーンによる新規成約件数 R3：34 件</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地乳を活用した新商品の開発及び商品の PR 強化</li> <li>・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化</li> <li>・持続可能な経営基盤の確立・強化</li> <li>・衛生管理体制の強化</li> <li>・販路拡大に向けた商談会等での販売促進</li> </ul>
---	--



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の開発及び販売促進	さかわの地乳(ぢちち)を使った加工品の磨き上げ・開発				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等：加工品の開発及び磨き上げ</li> <li>●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討</li> </ul>				
	販売促進の体制強化、地乳ブランドのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地乳プロジェクト推進会議、佐川町、佐川町商工会、地元商工業者等： <ul style="list-style-type: none"> <li>町内事業者への積極的な参画の呼びかけによる推進体制の強化、宣伝方法の検討、販促物の作成、地乳PRイベント等の開催</li> </ul> </li> <li>●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> <li>産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> </li> </ul>				
◆牛乳加工施設の体制整備及び販路拡大	持続可能な経営基盤の確立・強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： <ul style="list-style-type: none"> <li>県版 HACCP 新第1ステージの認証取得に向けた社内体制の構築</li> </ul> </li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> </li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">衛生管理体制の強化</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業： <ul style="list-style-type: none"> <li>県版 HACCP に基づく衛生管理手順の遵守、経営改善の検討</li> </ul> </li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度に関する情報提供</li> </ul> </li> </ul>		
	県内での消費拡大・県外量販店等への販路拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(有)吉本乳業、地元商工業者： <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な商談会等への出展、プロモーション活動の実施</li> </ul> </li> <li>●佐川町、佐川町商工会、県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> <li>各種支援制度に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し</li> </ul> </li> </ul>				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を継続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</b> (仁淀川地域全域)
<b>実施主体</b>	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、 越知町観光協会、(一社)日高村観光協会
<b>APへの位置づけ</b>	H24.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 宿泊者数	6.5万人 (R1)	4.3万人		6.6万人
(2) 入込客数	108.6万人 (R1)	85.4万人		111.8万人
(3) 観光消費額	1,248百万円 (R2)	1,248百万円		2,102百万円
(4) 来訪者満足度	98% (R2)	98%		98%
(5) リピーター率	46% (R2)	46%		50%
(6) 仁淀ブルー観光協議会 関連のツアー送客数※	6,671人 (H30)	1,985人		—

※(6)はR4年度以降、指標から除く。

### これまでの主な動き

#### <これまでの取り組みの内容>

##### ◆魅力づくりの強化・推進

- ・仁淀ブルーDMO アドバイザーの支援等による、事業者等の商品造成を支援
- ・仁淀ブルー体験博の実施 (R3)

##### ◆プロモーション・情報発信の強化・推進

- ・国内外メディアの活用や看板掲出、SNS 等による PR を実施
- ・県外の展示会やイベント等への出展
- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23～)
- ・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28～)
- ・ホームページの充実化 (H29:スマートフォン対応、H30:OTA (じゃらんネット) との連携)

##### ◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進

- ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光 PR を実施 (H29～)

##### ◆6市町村連携による広域観光の強化・推進

- ・仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月)
- ・(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月)
- ・第2種旅行業登録 (H28)
- ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月)
- ・仁淀ブルーDMO 観光戦略の策定 (H30.3月)

- ・仁淀ブルーDMO 観光戦略実行ワーキングの実施(H30～)
- ・マーケティング機能の強化 (ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30)
- ・マーケティング機能強化に向けた県版地域おこし協力隊の配置 (R2～)
- ・第2期仁淀川流域広域観光振興計画の策定 (R3.12月)

##### ◆インバウンド観光の推進

- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を実施
- ・ホームページの充実化 (R2:多言語サイト作成)
- ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30)

#### <主な成果>

- ◆日本版 DMO 登録 (R2.3月)
- ◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数  
H28:181本、H29:207本、H30:241本、  
R元:272本、R2:78本
- ◆仁淀ブルー体験博 (R3):33プログラム、422人参加

#### <課題>

- ・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上
- ・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大
- ・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆魅力づくりの強化・推進	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化		滞在型観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：宿泊施設等との連携による周遊促進、地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用した周遊促進のための導線づくり</li> <li>●市町村・観光協会：地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用したコンテンツの磨き上げ・開発・スタートアップ支援</li> </ul>				
◆プロモーション・情報発信の強化・推進	誘客促進のためのセールス・プロモーション		旅行会社へのプロモーション		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：関西・中国・四国のメディア系旅行会社を中心としたプロモーション</li> </ul>				
◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進	消費を増やすための流通と販売の強化		特産品や食の観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市町村・観光協会：地域資源を活用した「特産品」や「食」の磨き上げ・開発支援</li> </ul>				
◆6市町村連携による広域観光の強化・推進	流域の魅力的な情報提供力の強化		メディアやマスコミを活用した情報発信の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：SNS等を活用した関西・中国・四国へのPR、観光ガイドブック等を活用したPR、県内外のマスメディアへの情報発信、地域がモデルとなったアニメ等を活用したプロモーション</li> </ul>				
◆インバウンド観光の推進	受入・おもてなし体制の整備		観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：地域の担い手確保や域内事業者等のスキル向上等のための機会創出、観光客等の情報を一元化する体制の整備と活用できる仕組みの構築</li> <li>●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援</li> </ul>				
◆インバウンド観光の推進	組織体制・連携強化		マーケティングデータ収集の強化、関係機関等との連携強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：来訪者の実態調査・分析、関係者とのPDCA推進</li> <li>●県：マーケティングデータの提供、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>				
◆インバウンド観光の推進	※ R2, 3は、上記の項目内で実施していた取組を新たに項目立て。		魅力づくりの推進、受入に必要な環境や体制の整備		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：ニーズに沿ったコンテンツの磨き上げ・開発、HPの多言語対応、Wi-Fi・キャッシュレス対応など、受入体制の整備を推進</li> </ul>				
◆インバウンド観光の推進			プロモーションの推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：デジタルメディアを中心としたプロモーションの推進</li> </ul>				

【用語】・観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進</b> (仁淀川地域全域)
<b>実施主体</b>	◎(一社)仁淀ブルー観光協議会、土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村、 (一社)土佐市観光協会、(一社)いの町観光協会、仁淀川町観光協会、(一社)さかわ観光協会、 越知町観光協会、(一社)日高村観光協会
<b>APへの 位置づけ</b>	H24.4月
<b>事業概要</b>	仁淀川地域の自然、歴史、文化、生活、産業などの多様な地域資源を生かして旅行商品化を進めることで仁淀川ファンの拡大を図る。また、全国屈指の水質を誇る仁淀川のブランド化を進め、国内外での知名度を高めることで交流人口の拡大を図り、地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 宿泊者数	6.5万人 (R1)	4.3万人	5.2万人		6.6万人
(2) 入込客数	108.6万人 (R1)	85.4万人	88.2万人		111.8万人
(3) 観光消費額	1,248百万円 (R2)	1,248百万円	1,391百万円		2,102百万円
(4) 来訪者満足度	98% (R2)	98%	98%		98%
(5) リピーター率	46% (R2)	46%	44%		50%
(6) 仁淀ブルー観光協議会 関連のツアー送客数※	6,671人 (H30)	1,985人	1,275人		—

※(6)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆魅力づくりの強化・推進

- ・仁淀ブルーDMO アドバイザーの支援等による、事業者等の商品造成を支援
- ・仁淀ブルー体験博の実施 (R3～R4)

◆プロモーション・情報発信の強化・推進

- ・国内外メディアの活用や看板掲出、SNS等によるPRを実施
- ・県外の展示会やイベント等への出展
- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を展開 (H23～)
- ・流域の観光ガイドブック「NIYODO BLUE!」を作成(H28～)
- ・ホームページの充実化 (H29:スマートフォン対応、H30:OTA(じゃらんネット)との連携)

◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進

- ・観光関連事業者等を対象とした研修の実施
- ・クルーズ船の寄港に合わせて高知新港での観光PRを実施 (H29～)

◆6市町村連携による広域観光の強化・推進

- ・仁淀川地域観光協議会を設立 (H22.11月)
- ・(一社)仁淀ブルー観光協議会を設立 (H27.12月)
- ・第2種旅行業登録 (H28)
- ・仁淀川地域観光振興計画の策定 (H29.3月)
- ・仁淀ブルーDMO観光戦略の策定 (H30.3月)

- ・仁淀ブルーDMO観光戦略実行ワーキングの実施(H30～)
- ・マーケティング機能の強化(ウェブサイトデータ解析、ウェブアンケートシステムの構築) (H30)
- ・マーケティング機能強化に向けた県版地域おこし協力隊の配置 (R2～)
- ・第2期仁淀川流域広域観光振興計画の策定 (R3.12月)

◆インバウンド観光の推進

- ・旅行会社との商談会等のセールス活動を実施
- ・ホームページの充実化 (R2:多言語サイト作成)
- ・簡易型ガイドブックの多言語化 (H30)

＜主な成果＞

- ◆日本版DMO登録 (R2.3月)
- ◆仁淀ブルー観光協議会関連のツアー催行数  
H28:181本、H29:207本、H30:241本、  
R元:272本、R2:78本、R3:81本
- ◆仁淀ブルー体験博 (R3):33プログラム、422人参加  
(R4):53プログラム、約500人参加

＜課題＞

- ・仁淀川及び流域市町村の全国的な認知度のさらなる向上
- ・観光客のさらなる周遊促進による観光消費の拡大
- ・協議会のマーケティング機能及び市町村連携のさらなる強化

## 第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆魅力づくりの強化・推進	仁淀川流域らしい商品開発と品揃え強化		滞在型観光化の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：宿泊施設等との連携による周遊促進、地域資源や地域がモデルとなったアニメやNHK連続テレビ小説「らんまん」等を活用した周遊促進のための導線づくり</li> <li>●市町村・観光協会：地域資源や地域がモデルとなったアニメ等を活用したコンテンツの磨き上げ・開発・スタートアップ支援</li> </ul>				
◆プロモーション・情報発信の強化・推進	誘客促進のためのセールス・プロモーション		旅行会社へのプロモーション		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：関西・中国・四国のメディア系旅行会社を中心としたプロモーション</li> </ul>				
◆受入・おもてなし体制の整備強化・推進	受入・おもてなし体制の整備		観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：地域の担い手確保や域内事業者等のスキル向上等のための機会創出、観光客等の情報を一元化する体制の整備と活用できる仕組みの構築</li> <li>●県：県が主催する研修会等の人材育成事業の紹介、参加支援</li> </ul>				
◆6市町村連携による広域観光の強化・推進	組織体制・連携強化		マーケティングデータ収集の強化、関係機関等との連携強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：来訪者の実態調査・分析、関係者とのPDCA推進</li> <li>●県：マーケティングデータの提供、コーディネーターやアドバイザーの派遣による支援</li> </ul>				
◆インバウンド観光の推進	※ R2, 3は、上記の項目内で実施していた取組を新たに項目立て。		魅力づくりの推進、受入に必要な環境や体制の整備		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：ニーズに沿ったコンテンツの磨き上げ・開発、HPの多言語対応、Wi-Fi・キャッシュレス対応など、受入体制の整備を推進</li> </ul>				
			プロモーションの推進		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>●(一社)仁淀ブルー観光協議会：デジタルメディアを中心としたプロモーションの推進</li> </ul>		

【用語】 観光地域づくり法人（DMO）：DMOは、「Destination Management/Marketing Organization」の略。地域の「稼働力」を引き出すとともに、地域の誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。観光庁が登録を所管。

# 修正項目（案）

修正前

## 仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

<b>AP名 (実施地域)</b>	<b>No.30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進</b> (佐川町)
<b>実施主体</b>	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人
<b>APへの 位置づけ</b>	H21.4月
<b>事業概要</b>	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力をもっと感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。

指標	出発点	実績		目標
		R2	R3	R5
(1) 上町地区への入込客数	31,225人 (H30)	15,954人		40,000人
(2) 上町まち歩きガイド利用者数	4,512人 (H30)	695人		5,500人
(3) 青山文庫の入館者数※	5,559人 (R元見込み)	3,106人		-

※(3)はR4年度以降、指標から除く。

### これまでの主な動き

<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆<b>観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画の認定（H21、H31）</li> <li>・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施（牧野富太郎ふるさと館、名教館、旧浜口家住宅）（H21～26）</li> <li>・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始（H23～）、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催（H28～）</li> <li>・さかわ観光協会の設立（H25.4月）</li> <li>・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成（H28～29）</li> <li>・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置（H28～）</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発（H28、H30：各3回）</li> <li>・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設新築設計業務及び施設整備の実施（R元～2）</li> <li>・牧野公園を核とした植物が中心のまちづくりに向け、「まちまるごと植物園」のロゴプレートを配布（R元～）</li> </ul>	<p>◆<b>青山文庫の施設整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教のまち佐川」の推進に向け、青山文庫を含む新たな複合施設の基本構想を策定（R元）</li> <li>・候補となる施設の耐震診断を実施（R2）</li> <li>・複合施設としての整備から、現立地での改修へ向けて検討中（R3）</li> </ul> <p>◆<b>体験型観光の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」のプレ開催（H30）</li> <li>・「わんさかわっしょい体験博」の開催（R元～）</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆JR客車収容施設オープン（R3）</li> <li>◆わんさかわっしょい体験博体験プログラム数及び参加者数 H30:10プログラム/175名、R元:20プログラム/282名 R2:16プログラム/189名、R3:17プログラム/143名</li> <li>◆ハード・ソフト両面の整備を通じて、おもてなしの体制強化につながった</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資源等を活用した賑わいが生まれる取組の推進</li> <li>・体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの充実</li> </ul>
--	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり	JR 客車施設整備		上町地区観光案内・物販・飲食機能の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会： 効果的な周遊の仕組みづくり、客車施設を活用したイベント開催検討、機能強化に向けた体制整備</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>		
	観光客受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体： 歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など 牧野公園を核とした「まちまるごと植物園」構想の展開</li> <li>●佐川町内の地域づくり団体： 町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信など</li> </ul>				
◆青山文庫の施設整備	複合施設の整備検討		青山文庫の整備方針の検討・施設改修		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫： 整備方針の検討</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫： 整備方針の検討、基本・実施設計、施設改修</li> <li>●県（地域本部等）： 観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
◆体験型観光の推進	体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者： 体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの磨き上げ、常設体験型観光メニューの実施検討</li> <li>●県（地域本部等）： 県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>				

AP名 (実施地域)	<b>No.30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進</b> (佐川町)
実施主体	◎佐川町、◎(一社)さかわ観光協会、◎佐川町内の地域づくり団体・個人
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	歴史的な街並みの整備を行うとともに、観光資源の効果的な活用により、「歴史と文教のまち・佐川」の魅力を存分に感じられるまちづくりを行政・観光協会・地域が一体となって進める。

指標	出発点	実績			目標
		R2	R3	R4	R5
(1) 上町地区への入込客数	31,225人 (H30)	15,954人	18,180人		40,000人
(2) 上町まち歩きガイド利用者数	4,512人 (H30)	695人	1,909人		5,500人
(3) 青山文庫の入館者数*	5,559人 (R元見込み)	3,106人	4,045人	—	—

※(3)はR4年度以降、指標から除く。

これまでの主な動き	
<p><b>&lt;これまでの取り組みの内容&gt;</b></p> <p>◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画の認定 (H21、H31)</li> <li>・街並み環境整備事業を活用し、歴史的建築物の改修や整備を実施 (H21～26)</li> <li>・町歩きガイド団体「くろがねの会」によるガイド事業の取り組み開始 (H23～)、ガイド育成勉強会やインバウンド対応のための英語ガイド勉強会の開催 (H28～)</li> <li>・さかわ観光協会の設立 (H25.4月)</li> <li>・歴史観光資源等強化事業費補助金を活用し、幕末維新博に向けて、青山文庫の改修整備及び案内・誘導看板の整備や周遊先施設の展示充実、情報発信機能の強化による観光クラスターの形成 (H28～29)</li> <li>・館内ガイド配置支援事業を活用し、青山文庫に館内ガイドを配置 (H28～)</li> <li>・産業振興アドバイザーを導入して、地域食材を活用した飲食メニューを開発 (H28、H30：各3回)</li> <li>・佐川町にゆかりのあるJR客車の移設・展示による観光振興に向けた客車収容施設の整備 (R元～2)</li> <li>・博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用し、NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に向けた観光客受け入れ体制強化のため、草花ガイドの養成や、牧野富太郎ふるさと館を始めとする各種施設の整備等を実施 (R4)</li> </ul>	<p>◆青山文庫の施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文教のまち佐川」の推進に向け、青山文庫を含む新たな複合施設の基本構想を策定 (R元)</li> <li>・複合施設としての整備から、現立地での改修、または別場所での整備について検討中 (R3～)</li> </ul> <p>◆体験型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した体験プログラムを一定期間に開催する、体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」のプレ開催 (H30)</li> <li>・「わんさかわっしょい体験博」の開催 (R元～)</li> </ul> <p><b>&lt;主な成果&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆わんさかわっしょい体験博体験プログラム数及び参加者数 H30:10プログラム/175名、R元:20プログラム/282名 R2:16プログラム/189名、R3:17プログラム/143名</li> <li>◆ハード・ソフト両面の整備を通じて、おもてなしの体制強化につながった</li> </ul> <p><b>&lt;課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史資源等を活用した賑わいが生まれる取組の推進</li> <li>・青山文庫の改修方針の決定</li> <li>・体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの充実</li> </ul>



第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光資源の活用、おもてなしの体制づくり	JR 客車施設整備		上町地区観光案内・物販・飲食機能の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会：旧浜口家住宅と連携した効果的な活用方法の検討</li> <li>●県(地域本部等)：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会：効果的な周遊の仕組みづくり、客車施設を活用したイベント開催検討、機能強化に向けた体制整備</li> <li>●県(地域本部等)：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>		
	観光客受入体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、佐川町内の地域づくり団体：歴史的な遺産や街並みの維持・管理、町内施設等を周遊する仕掛け作り、パンフレット・HP等の活用、関係機関との連携による情報共有・情報発信など 牧野公園を核とした「まちまるごと植物園」構想の展開</li> <li>●佐川町内の地域づくり団体：町歩きガイドの育成・確保、外国人観光客の受入体制の強化に向けた勉強会の実施、ガイドメニューの充実化検討</li> <li>●県(地域本部等)：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、県のメディアサイト等での情報発信など</li> </ul>				
◆青山文庫の施設整備	複合施設の整備検討		青山文庫の整備方針の検討・施設改修		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫：整備方針の検討</li> <li>●県(地域本部等)：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、青山文庫：整備方針の検討、基本・実施設計、施設改修</li> <li>●県(地域本部等)：観光拠点等整備事業費補助金等の活用検討、各種支援制度に関する情報提供</li> </ul>		
◆体験型観光の推進	体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●佐川町、(一社)さかわ観光協会、体験型観光事業者：体験型博覧会への参加者増に向けた体験メニューの磨き上げ、常設体験型観光メニューの実施検討</li> <li>●県(地域本部等)：県のメディアサイト等での情報発信</li> </ul>				